

## 定期試験等の学事日程とインターンシップとの競合について

2020年6月19日

法学部長 大澤 裕

新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、Sセメスターの定期試験等の学事日程が変更されたことに伴い、学生の皆さんからは、8月まで延びた学事日程と企業や官庁等の夏季インターンシップとの競合を懸念する声が寄せられています。

皆さんからの声を受け、法学部として全学的に問題提起をしたところ、6月12日付けで、理事・副学長（学生支援担当）より、本学が過去に開催した企業等研究会の行事に参加した123社に対し、学生のインターンシップ参加への配慮を求める要請書が送付されました。また、本学キャリアサポート室のホームページ上にも、同要請書の内容がアップされ、広く周知が図られました。

[https://www.careersupport.adm.u-tokyo.ac.jp/news/item/663-ovid19\\_internship\\_request](https://www.careersupport.adm.u-tokyo.ac.jp/news/item/663-ovid19_internship_request)

同要請書では、7月下旬から8月に定期試験や実習を実施せざるを得ない状況を踏まえ、東京大学として、関係企業等に対し、「学生が夏季に行われるインターンシップに参加できなくなることをないように、夏季休業期間内で実施時期を延長いただくことや、週末等の実施及び夏季以外の長期休暇期間における複数回の実施、並びに可能な限りオンラインでの実施について」配慮のお願いがされており、法学部の定期試験日程についても、参考情報として明示されています。

同要請書は、その後、上記123社以外にも、学生アンケートを通じて学生のインターンシップ参加希望が把握できた企業に対し送付されています。

本学部の定期試験を含む学事日程は、学生の皆さんの様々な負担にも配慮しつつ、必要な授業時間の確保と厳格な成績評価・単位認定の実施という教育機関として最も基本的な使命を果たすために最大限の工夫を行った結果であり、ご理解をお願いするほかありません（上記の基本的な使命が厳格に果たされていることへの信頼こそが、本学部の学生〔卒業生〕に対する社会的評価の源泉にほかならないことも想起していただけますと幸いです）。しかし、インターンシップ等への参加は、自己の適性を見極め、将来の進路と向き合ううえで、大変貴重な機会であり、学生の皆さんがその機会を失うことがないように、本学部としても、引き続きできる限りの支援を行いたいと考えています。

具体的に、皆さんがインターンシップの日程調整等にあたり必要がある場合には、上記の東京大学としての要請書とは別に、本学部としても、個別に企業等に対し学部の事情を説明し、配慮をお願いする文書を用意いたします。必要がある場合には、学部チーム（下記アドレス）までお申し出ください。また、他に希望する支援措置があれば、ご相談くだ

さい。

学部チーム [gakubu.j\(at\)gs.mail.u-tokyo.ac.jp](mailto:gakubu.j(at)gs.mail.u-tokyo.ac.jp) ※(at)を@に置き換えてください。